

20	蒲郡	蒲郡市立三谷中学校	シラサワ ヨシアキ
分科会番号 2		分科会名 外国語教育	白澤 義顕

研究主題

「ひと・もの・こと」と関わりながら自らの表現を追究する生徒の育成
 ～3年英語科「災害大国の日本 今、私たちにできること」の実践を通して～

1 主題設定の理由

本学級の生徒たちは明るく前向きな生徒が多く、自分たちの地区に対して愛着のある生徒が多い。英語の授業では積極的に仲間と関わろうとする姿が見られる。本校は、外国籍の生徒が約15%を占めていることもあり、授業以外の時間でも、学習した単語や表現を使いながら会話をしようとする様子も見られる。しかし、ALTや新しく出会った人に対して積極的に関わることができず、声をかけることができない生徒もいる。これは学校や地域の人といった決まった関わりの中で過ごすことが多いことや自分の思いを伝える語彙が乏しいことが原因だと考える。そこで、生徒が幅広い表現を学ぶ授業を展開したり、たくさん「ひと・もの・こと」と関わる機会を設定したりすれば、それらと関わりながら自らの表現を磨こうと動き出すと考えた。

生徒たちにとって身近にいる外国人のために、わかりやすい伝え方を研究し、自分の英語や表現に自信をもって伝え、誰かの役に立てたという達成感を味わわせたいと考えた。生徒たちが、仲間やALT、地域の災害など様々な関わりの中で自分の表現を磨き、自信をもって楽しみながら英語を話すことを願い、「ひと・もの・こと」と関わりながら自らの表現を追究する生徒の育成」を研究主題として実践することとした。

2 研究の仮説と方法

(1) めざす生徒像

<こんな生徒たちを>

- ・地域に愛着をもち、英語の授業に対して積極的に取り組む生徒
- ・英語で何かを伝える際、自分が話す英語や表現に自信をもって伝えることが難しいと感じる生徒
- ・仲間との交流には前向きに取り組むが、新しく出会う人に対して消極的になってしまう生徒



<こんな生徒たちに>

- I 身の回りにある<もの・こと>を見つめ、<もの・こと>に対する思いや考えを伝えられるようにより豊かな表現を求めてすすんで追究する生徒
- II 地域に住むALTの友だちのために、より伝わるために何が必要かを考え、追究を見直す生徒

(2) 研究の仮説

- ◆仮説Ⅰ 一生徒にとって身近な内容で単元を構想し、出合わせ方の工夫や、個の追究を支援すれば、生徒は豊かな表現を求めてすすんで追究するだろう。
- ◆仮説Ⅱ 一生徒の思いや個の追究状況を捉えた上で、段階的に学習活動を設定すれば、生徒はより伝わる発表にするために何が必要かを考えて、追究を見直すだろう。

(3) 仮説に迫る手だて

手だてⅠーア 出合わせ方の工夫

生徒たちの追究意欲がわくようにALTの友だちからのビデオレターという「ひと」に出会わせる。ALTの友だちから「最近地震が多く、起きた時にはどのように行動したらいいかわからない」という言葉を聞き、自らの問題を設定し、学習に取り組んでいこう。本学級の生徒は自分たちの住んでいる町に愛

着をもっているため、塩津という「もの・こと」を教材として取り扱うことで、より意欲的に追究することができると考える。

手だてⅠーⅠ 個の追究を支援

自分の思いを伝えられるように、一人で問題に取り組んだり、表現を考えたり、調べたりする時間を設ける。発表の中で、より豊かな表現ができるように、教師の自作プリントを活用する。また、学習する文法である間接疑問文や後置修飾を使った表現に慣れることができるよう、身近な場所やものに関する説明クイズを帯活動として取り組む。

手だてⅡ 段階的な学習活動の設定

生徒の追究状況に応じて、「仲間と関わる場」「ALT と関わる場」を設定する。

「仲間と関わる場」は、個の追究で出てきた生徒の「仲間に自分の考えを聞いてもらいたい」「わからないことがあるから、仲間に相談したい」という思いを捉え、仲間と関わる場を設定していく。「ALT と関わる場」は、より豊かな表現方法を知ることができる場として設定する。

3 研究の実践

(1) 単元構想 (全 13 時間)

(1) 単元構想 (全 13 時間)

学習活動と予想される子どもの反応 ★ふり返りの視点	めざす生徒像に迫るための手だて・ 教師の支援や指導上の留意点
日本や海外の自然災害について理解を深めよう① ○ALT から母国の自然災害についての話を聞く。また、自然災害についてのクイズに答える。 ・最近、日本でも地震や豪雨など自然災害が多いな。 ・外国人向けのハザードマップもあるんだ。塩津地区、外国人がたくさんいるんだな。私たちには何ができるかな？ ・今のままでは、地域に住む外国人の人たちの力になれない。もっと調べて知りたい。自信をもって自然災害のことを伝えたい。 地域で困っている人たちを助けるために、 自然災害やその備えについて詳しく伝えたい！ ★ALT の話を聞き、クイズに参加した感想	・自分も調べて伝えたいという思いを高め、追求意欲を持続させるために、ALT の友達が自然災害に対して困り感があると話しているビデオメッセージを見せる。 ・地域に住む外国人に向けた動画作成を提案する。
自然災害やその備えについて伝えるための表現を身につけよう②③④⑤⑥⑦ ○動画の撮影に向けて間接疑問文や後置修飾の文法を学び、特徴やきまりを理解する。 ・疑問詞が文の中で使われることもあるんだ。語順が変わるんだね。 ・この文法を使えば、「どこに避難するか」や「何を用意するか」という言い方もできそう。 ★新しい表現を学習して感じたこと、動画作成に生かしたいこと	・間接疑問文と後置修飾の文法を定着させるために、帯活動として Small Talk で身近な場所や物に関する説明クイズを行う。
地域に住む外国人のための動画作成に向けて準備をしよう⑧⑨⑩ ○タブレットで情報収集をし、自然災害について伝えたい内容を一人一つ決める。また、その内容を英語で表現できるよう準備をする。 ・自然災害の種類、日本における自然災害の歴史、防災グッズ、避難場所と経路、避難情報の種類と避難方法、災害用伝言ダイヤル…。色々あるなあ。どれを伝えよう。 ・地域に住む外国人にわかりやすく伝えるように、見せる写真や話し方を工夫したいな。 ★調べたり、準備をしたりして感じたこと	・発表内容のメモを作成する。原稿をそのまま読む発表になってしまうよう、マインドマップのような形とする。
伝わりやすく魅力的な動画を目指し仲間と動画を撮りあおう⑪⑫ ○発表練習をし、動画を撮影しよう。関わりを通して評価・改善を行う (内容例：防災グッズ) Do you prepare anything for disasters? Let me tell you what we need for them. There are many kinds of goods. Today, I'd like to introduce this one. Do you know what it is? This is a foldable helmet called 'tatamet zukin'. When the earthquake happens, a fire often happens together. This is made of fire-proof material, so it is not only to protect your head but also to avoid a burn. How useful! … ・同じ内容でも、この子の説明がわかりやすいのはなぜ？ジェスチャーをつけ、理解してもらおうと一生懸命説明しているからかな。 ★仲間との交流を行って感じたこと	・発表練習をしたのちお互いの動画を撮りあい、良い点や改善点を伝えあう。撮った動画を自分でも見て振り返る。仲間と関わりあうことにより、わかりやすい伝え方を研究していく。
いよいよ撮影。そして地域に住む外国人に見てもらおう！⑬ ○評価・改善をもとに修正した動画を撮る。ALT の家族や友達に見てもらう。のちに、公民館など地域の施設にも DVD として渡し、活用してもらう。 ・伝え方を工夫して一生懸命撮った動画を、外国人に実際に見てもらえてうれしい。自分たちの英語が伝わったよ。 ・自分たちも、自然災害について理解を深めることができた。 ★動画が完成し、外国人の反応を見て感じたこと・今後生かしたいこと	・自分たちの学びや努力が誰かのために役立ったと成長を実感できるよう、ALT の友達からの感想ビデオメッセージを見る。

(4) 抽出生徒（生徒 A）について

本実践では生徒 A の変容を追い、手だての有効性を検証した。生徒 A は、どの授業にも真面目に取り組んでいる。英語の授業においても、わかる問題で積極的に発言をしようとする。英語をもっとスラスラ話せるようになりたい、色んな文法を理解したい、など前向きな思いをもっている。しかし、自分が話す英語に自信をもてず、これで良いのかなという不安があり、積極的に話すことが難しい。本実践では、たくさんの「ひと・もの・こと」との関わりを経て、自らの表現を追究する姿を期待する。

(2) 研究の実際と考察

① ALT の友達のために、自分にできることをして助けたいという思いをもった生徒 A

(手だて I - アの検証)

第 1 時では、ALT の友達が日本で暮らすうえで自然災害に対して困り感があると話しているビデオメッセージを見た【資料 1】。生徒たちは、話していた内容について、「最近、塩津で起こった土砂崩れが怖かったと言っていたね」「でも、そういう自然災害の時に何をすればいいかわからない、とも言っていたよね」と言っていた。さらにビデオの最後に“Could you help me?”という言葉聞き、「同じ蒲郡に住んでいるから、この辺でよくある自然災害とか伝えてあげるのもいいかも」や、「便利な防災グッズとかを伝えたい」とつぶやくなど、どんなことを伝えるのか前向きに考えようとする様子が見られた。しかし、生徒 A が不安そうな表情をしていたため、教師から「大丈夫そうかな。何を伝えるといいかな」と声をかけると、生徒 A は「みんなが言うように、伝えられそうなことはあるけど、詳しくわからないものが多いし、すぐには英語で言えないから、色々調べて、ちゃんと練習してから伝えたい」と答えた。生徒 A は振り返りに「ALT の友だちが困っているから、なんとか安心してもらいたい。でも、どうやって伝えていいのかはまだわからないので、不安です」と書いた。興味をもってビデオを見ている様子や生徒 A のふり返しから、ALT の友だちに対して英語で地域の災害について伝えていきたいという思いをもつことができた。

単元の導入にビデオレターを見たことや地域の災害を教材として取り扱ったことで、生徒の興味・関心を引き、「英語で災害について伝えたい」と自ら学習に向かうことができたといえる。

② くり返し行うクイズで間接疑問文や後置修飾の表現に慣れ、発表メモの作成に生かす生徒 A

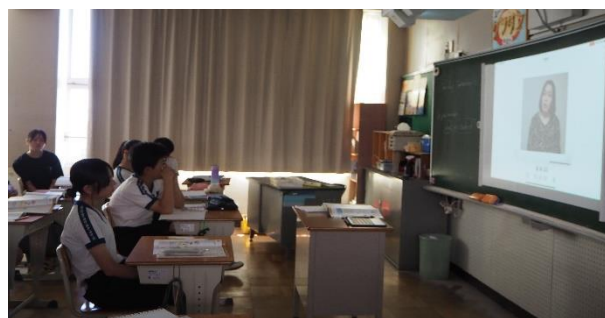
(手だて I - イの検証)

第 1 時では、ALT の友達を助けてあげたい気持ちはあるものの、自然災害や防災について英語で表現することが難しそうだと感じる生徒が多かった。第 2 時と第 3 時では、物事を詳しく伝えられるように新しく間接疑問文と後置修飾の使い方を覚え、これらを使った文章を書く一人学びの時間を設定した。

生徒から“I know where we have to go.”にすれば一文で伝えられるよね」や「一つにまとめた方がわかりやすいね」という声に加え、「これだけで ALT の友だちに伝えられるのかな」という不安な声

ALT's friend:

Hi, I'm Veronica's friend. I live near the station in Sakaemachi, Gamagori. Recently, we had a landslide in Shiotsu. I was so scared when I heard about it. My concern is that my family and I, we don't know what to do when there is a landslide, where to go when there is an earthquake. What do we need to prepare in our emergency case? It is hard for me to understand information about natural disasters because it is written in Japanese. Could you help me? Thanks in advance!



【資料 1】ビデオメッセージの内容と生徒たちの様子

が出てきた。そこで、第3時からこれまでの文法の復習と新しい後置修飾の使い方を習得する時間を設定した。文法の復習は教師の自作プリントに取り組んだ。

しかし、生徒Aは疑問詞の位置の変化や文法の複雑な特徴やきまりに対して不安を抱いていた。そこで、楽しみながら表現に慣れ、活用してみたいという意欲を高めるために、毎回授業の初めにそれらの文法を使って行う説明クイズを帯活動として取り入れた【資料2】。説明クイズとは、用意したお題についてペアの片方がヒントとなる内容を英語で言い、もう片方が何について説明しているか当てるというものである。その説明のなかで、自然に間接疑問文や後置修飾を使うことができるよう、お題のスライドに使わせたい単語を載せておくなど工夫をした。繰り返し活動に取り組んだ後、生徒Aは「何回もクイズをやっていたら慣れてきて、前よりも英語がずっと出てくるようになった。動画の英文作りでも使いたい」と記述している【資料3】。帯活動の説明クイズを通して何度も間接疑問文や後置修飾の表現を口に出したことにより、その特徴やきまりを理解して使えるようになっていくことがわかる。

第8時から、自分が発表のなかで伝えたい内容について考えていった。タブレットで調べるなかで、防災グッズや蒲郡の災害の歴史、災害用伝言ダイヤルなど、さまざまな案を出していった。そのなかで生徒Aは、家具や物の配置について伝えることに決めた。その後、英語での表現を考えて発表メモを作成する際、「どこに置くか、と言う時に、間接疑問文が使えるそう」などと、学びを活用できそうなところを複数見つける姿が見られた。また、生徒Aは自分の伝えたいことを整理できるようにマッピングを取り入れた教師の自作プリントに取り組み始めた

【資料4】。生徒Aは家具の置き場所について、“what we should not do”や“what we

should do”などの項目に分けて、伝えたい内容を書き出すことができた。生徒Aは「家具を置く位置について考えて調べていく度に“あ、ここも伝えたいな”“この場所も危ない”ってたくさんの案が出てきてなかなか絞るのが難しかった」と振り返った。塩津や災害という「もの・こと」とかかわっていくうちに、さらにALTの友だちに危険な場所を伝えていきたいという気持ちが高まったことがわかる。

教師の自作プリントを用意したり、身近な場所や物に関する説明クイズを帯時間で取り入れたりしたことは、生徒の追究を支えるのに有効であったことがわかる。



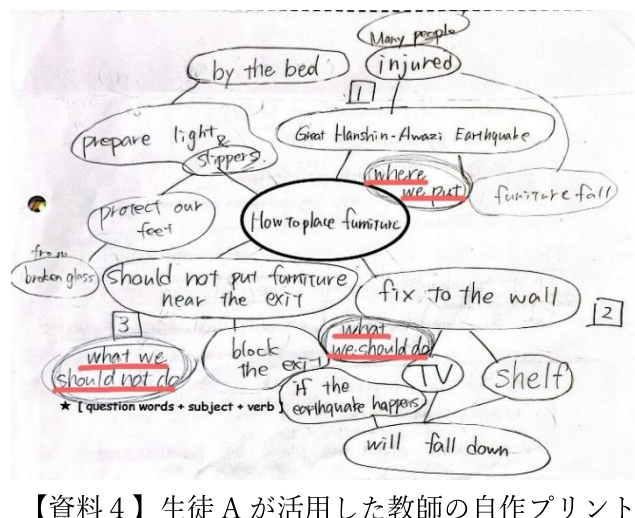

used in... **apron** use

S1: I can tell you when we use this. We use this when we cook and prepare our school lunch. There are many colors and some pockets. This is clothing used in the kitchen. We use this every day at school. Do you know what it is?

【資料2】説明クイズのスライドと説明例

初めは新しい文法のアプローチが難しく感じていたが、何回もクイズをやっていたら慣れてきて、前よりも英語がずっと出てくるようになった。動画の英文作りでも使いたい。

【資料3】生徒Aの振り返り（第7時）



Many people injured
Great Hanshin-Awaji Earthquake
prepare light & slippers
protect our feet
furniture fall
fix to the wall
TV
shelf
will fall down
block the exit
if the earthquake happens
what we should do
what we should not do
should not put furniture near the exit
from broken glass
by the bed
where we put

【資料4】生徒Aが活用した教師の自作プリント

③仲間や ALT と関わりあい、発表を改善して自信をつけていく生徒 A（手だてⅡの検証）

生徒から「発表の様子をみんなに見て、確認してもらいたい」という声が上がったため、第 11 時から学級の仲間と発表練習をする時間を設けた。生徒たちは自分たちで調べて書き出したメモをもとに仲間同士で発表練習を行った。発表をしていくうちに「もっと伝わる発表は何だろう」という疑問の声が出てきたため、学級で発表のポイントを考える時間を設けた。すると、生徒からよりわかりやすい伝え方をめざすためのチェックポイント 3 つ（①声 ②話す速さやジェスチャー、表情などの表現 ③写真や実物の活用）が出てきた。それらのポイントと、作成した発表メモをもとにさらに練習を進めた。その後、ペアで練習をし、チェックポイントをもとに良い点と改善点を伝え合った。ペアを変えながら複数回くり返した後、お互いの発表を撮影し合い、撮影した動画を自分で見る時間を設けた【資料 5】。「自分では結構大きい声で話していたつもりだったけど、意外と聞き取りにくい」や、「目線をもう少し上げた方がいいな」などと声が上がった。生徒 A は、「思っていたよりも表情が硬くて怖い」と発言し、その原因について「緊張しているのと、英語を話すことに必死になっているから」と客観的に分析をし、自分の改善点を見つけた。その後、各自の改善点を踏まえて再度他のペアとの練習を進めていった。生徒たちは、それぞれ自分の課題や見てほしいポイントをペアの相手に伝えてから発表を始め、終わった後には、その課題について積極的に確認していた。生徒 A は、表情豊かに話す生徒とペアになった際、「表情は何か意識している？ 真剣になると顔が怖くなっちゃうんだよね。」と仲間から学ぼうとする姿が見られた。生徒 A は「改善点がわかった。表情がいいなと思った子のまねをしてみた。（中略）ペアの子に褒めてもらえてうれしかった」とふり返った【資料 6】。自分の動画を見ることで客観的に分析をして、自分の改善点を見つけ、さらに良い発表にしようと追究していることがわかる。



【資料 5】仲間と動画を撮り合う様子

さらに、「実際の外国人にも伝わるかどうか知りたい」という振り返りが出てきたため、ALT に自分たちの発表を見てもらう機会を設けた。発表練習を見てもらったり、アドバイスをもらったりする場を設定した。ALT に発表している時、生徒たちから「意外と緊張して、早く言ってしまう」「緊張して声が小さくなってしまうね」という声が出てきた。しかし、くり返し練習を重ねていくうちに「だんだんと声を大きく出せるようになってきた」「ALT の目を見ながら発表できるようになってきた」という声に変っていった。生徒 A もはじめは緊張した様子であったが、次第に自信をもって発表できるようになっていった。ALT から “Your speech is very interesting. I know what to do when there is an earthquake.” という言葉を聞き、喜んでいた。「ALT からアドバイスをもらって、何を意識すればいいのかがわかった。次のビデオ撮影でいかしていきたい」とふり返る生徒もいた。ALT と関わる場やアドバイスをもらう場を設定したことにより、コミュニケーションポイントを明確にすることができ、さらに自分の表現を磨こうと動き出すことができた。

自分の動画、と見るのは少しはすかしがイけど。
改善点がわかった。表情がよいなと思った子のまねを
まねしてあげ。意識してことと次のペアの子に褒めてもらえてうれしかった。
本番もがんばるね！

【資料 6】生徒 A の振り返り（第 1 2 時）

段階的な学習活動の設定として、仲間や ALT と関わりながら追究する時間を設けたことで、発表内容についてアドバイスをし合ったり、より伝わる発表に必要なことを考えたりとより豊かな表現を追究することにつながったと考える。

④自分たちの努力が、外国人の役に立ったことを実感して喜ぶ生徒A（手だてIーアの検証）

第13時には、これまでの練習を踏まえて、実際にALTの友達に見せるための動画の撮影を行った。練習のなかで意識してきたことや仲間に教えてもらった改善点、チェックポイントなどを確認し、今までに一番良い動画を撮影しようと努める姿が見られた。生徒Aも初回の撮影時と比べるとはるかにリラックスした表情をしており、自信をもってはっきりと話すことができていた。生徒Aは「今までで一番良い発表ができた。今まで言われてきたことを全て出すことができてよかった」と言っていた。この発言が見られたのは、たくさんの人と関わりながら学習を進め、自分の話す英語が伝わる達成感を得ることができたからだ考える。

生徒たちが撮影した動画を、ALTを通して実際にその友達に見てもらった【資料7】。その動画に対して、ALTの友だちからビデオメッセージをもらうことができた。そこで、自分たちの動画を見ている様子と、そのビデオメッセージを見る機会を設けた【資料8】。ビデオメッセージを見た後の生徒Aは「ちゃんと伝わっていることがわかってすごくうれしかったです。（中略）伝わったときのうれしさがよくわかったので、これからも英語をがんばりたいです」とふり返った【資料9】。今まで

で学習したことを全て生かして災害について伝えることで、自分の思いをうまく伝えることが苦手であった生徒Aは自信をもって相手に伝えることができたといえる。ビデオメッセージを見た生徒たちは、自分たちが懸命に調べ、わかりやすく伝えようと努力してきたことがALTの友達の助けになったことを実感し、とても満足そうな表情をしていた。学びを生かす場を設定したことで生徒Aはこれまで学んできたことに達成感を得て、今後の学習への意欲を高めることができ、この手立てが有効であることがわかる。

4 研究の成果と課題

○「ALTの友達をなんとかして助けたい」という思いをもたせ、新しく学習する表現に慣れる帯活動を設定したことで、追究意欲をもち続け、学習した文法や表現を使いながら積極的に伝える内容を考える生徒が増えた。

○英語を使う必要感のある相手（ひと）や生徒の身近となる塩津や災害（もの・こと）を単元の中に取り入れたり、個の追究を支援したりすることによって、生徒自ら表現を追究することとなった。

△今回の実践では、地域学校協働本部との連携により、公民館における子ども食堂で生徒たちが作成した動画を流してもらうことができた【資料10】。しかし、地域の外国人がそれほど多く集まる環境ではなかったため、さらに多くの外国人の目に触れる機会を作り、生徒たちの英語が伝わる楽しさをより実感できるようにしていきたいと考える。



【資料7】生徒たちの動画を見ている様子

ALT's friend:

Hi, everyone. My family and I watched your all videos. It was so helpful for us. We learned about a lot of things. For example, what we prepare for disasters, useful goods, hazard map and how we place the furniture. Many students use good gestures and objects, so it was easy to understand. Again, thank you for your cooperation!

【資料8】フィードバックビデオメッセージの内容

3-1へのコメントで、私が発表していた家具の配置について書いてくれていて、ちゃんと伝わっていることがわかってすごくうれしかったです。災害のことで英文をたくさん読んで、お礼の言葉を言ってくれて、これからも英語をがんばりたいです。

【資料9】生徒Aの振り返り（単元終了後）



【資料10】

公民館で生徒たちの動画が紹介されている様子